

自立活動学習指導案  
[通級指導教室（言語障害）における指導]

広島市立〇〇小学校  
教諭 〇〇

- 1 日時 令和4年5月〇日（〇）
- 2 場所 通級指導教室（個別指導室）
- 3 児童 A 小学校 第〇学年 他校通級（週1回1単位時間）
- 4 児童の実態と取組のまとめ

構音指導については、被刺激性がみられた[su]から開始し、正しく構音できるようになった。また、[su]が正しく構音できるようになったことで、その他の/s/や/dz/についても波及効果がみられ、正しく構音できるようになり、現在は、会話レベルでおおむね正しく構音できるようになっている。

現在は[ki]の構音指導を行っている。[ki]については、構音の発達段階が比較的早い音であることや被刺激性はみられないものの、本児自身も誤りに気が付いて正しく構音し直そうとする様子がみられたため、指導する音とした。弁別練習は、無意味3音節レベルで異同弁別を行い、おおむね正しく弁別できるようになっている。構音練習は、単音節レベルで正しく構音できることが増えてきている。練習に取り組む際には、本児が「できた」という実感を積み上げ、学習活動に安心して意欲的に取り組むことができるように、本児の「今できていること」と「少し難しいが、もう少しできそうなこと」を的確に把握し、その両方を学習内容に取り入れていくことを心掛けている。

その他、指示・説明・評価をする際に話す内容が多かったり、内容が複雑だったりすると「難しい。」「分からないなあ。」と言って自信をなくしてしまう様子がみられるため、指示・説明・評価は短く簡潔に、本児が分かる言葉で行うようにしている。また、図や写真等を一緒に示すと視覚的に確認でき、安心して学習に取り組むことができる。

保護者とは、指導後の懇談を通して情報交換を行っている。保護者の思いを受け止めながら、適切なかわり方などを伝えるようにしている。「最近、『さすせそ』が本当にきれいに言えるようになって、聞き取りやすくなりました。」と、本児の構音が改善してきていることを喜ぶ様子がみられる。今後も、指導の進度や本児の構音の様子を伝えていきながら、本児の言語環境を整えていけるように、連携を図っていきたい。

#### 5 指導方針

指導に当たっては、本児をとりまく言語環境を整えながら、本児のニーズに応じた以下のような指導を行い、話すことに対する自信を育てていきたい。

- (1) 発声・発語器官の運動機能を高める。
- (2) 課題音について、語音弁別力を高める。
- (3) 正しい構音要領を身に付け、構音の改善を図る。
- (4) 保護者との連携を図る。
- (5) 通常の学級担任との連携を図る。

## 6 短期指導計画

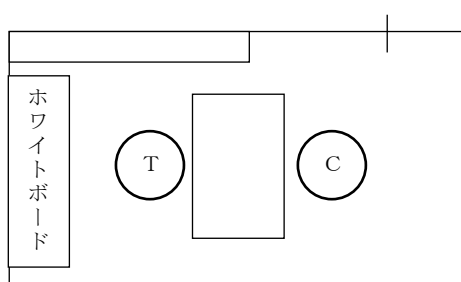
[ki] → /kj/ → [gi] の順で指導を進めていく。

指導目標	内容
(1) 発声・発語器官の運動機能を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発声・発語器官の運動機能を高める。</li> <li>① 口唇や舌の運動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 舌全体を脱力して平らにしたまま10秒間保持する。</li> <li>・ 口蓋垂が見えるように舌背全体を平らにする。</li> <li>・ 口蓋垂が見えるように舌背全体を平らにして10秒間保持する。</li> </ul> </li> </ul>
(2) 課題音について、語音弁別力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 聞き分ける耳を育てる。(耳の訓練)</li> <li>① 聞く態度を育てる。(傾聴態度)</li> <li>② いろいろな音の中から目的語を聞き出す。(聞き出し)</li> <li>③ 目的音を繰り返し聞く。(刺激)</li> <li>④ 一対の音を聞いて、同じかどうか聞き分ける。(異同弁別)</li> <li>⑤ 目的音と誤音を聞き分ける。(正誤弁別)</li> <li>⑥ 自分の発音が正しいかどうか比較・照合する。(比較・照合)</li> </ul>
(3) 正しい構音要領の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 正しい構音能力の向上を図る。</li> <li>① 正しい音の出し方をつかむ。</li> <li>② 正しく言えるようになった音に慣れる。 (単音節→無意味2・3音節→単語→語句→単文)</li> <li>③ 音読の中で、いつでも正しく構音できる。</li> <li>④ 日常会話の中で、いつでも正しく構音できる。</li> </ul>
(4) 保護者との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 懇談を通して、保護者の願いを受け止めたり、課題を整理したりする。</li> <li>② 必要に応じて、家庭訪問を実施し、家庭での実態把握をする。</li> </ul>
(5) 通常の学級担任との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 本児の日々の実態を情報交換する。</li> <li>② 実態調査を行い、通常の学級での実態を把握する。</li> <li>③ 授業公開を行い、情報交換を行う。</li> <li>④ 通常の学級の授業を参観し、実態把握に努める。</li> </ul>

## 7 本時の目標

- 舌を脱力して、口蓋垂が見えるように平らに安定させることができる。
- [ki] について単語レベルで正誤弁別が正しくできる。
- [ki] を単音節レベルで正しく構音することができる。

## 8 教室内の配置図



9 学習過程

学習活動	○：支援 ・ ☆：評価	資料・準備物
<p>○ はじめの挨拶をする。</p> <p>1 学習内容を知る。</p> <p>2 「べろの体そう」をする。 (口唇や舌を随意的に動かす練習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホットケーキ (舌を脱力し平らに安定させる練習)</li> </ul> <p>ポイントを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>&lt;ポイント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ふわふわ</li> <li>・ ストップ</li> <li>・ のどちんこ</li> </ul> </div> <p>3 「よくきいて」をする。</p> <p>○ [ki]について</p> <p>① 異同弁別：無意味3音節レベル</p> <p>(1) ルールを確認する。 一対の音を聞いて、同じ音であれば「同じ」、違う音であれば「ちがう」の紙皿におはじき(カラーボール)を入れる。</p> <p>(2) 練習する。 無意味3音節レベル</p> <p>② 正誤弁別：単語レベル</p> <p>(1) ルールを確認する。 提示された文字カードを見て、担当者が正しく構音したら「○」、誤っていたら「×」の紙皿におはじき(カラーボール)を入れる。</p> <p>(2) 練習をする。 単語レベル</p>	<p>○ 見通しをもって学習に取り組むことができるように、本時の学習内容を確認する。</p> <p>○ 練習を開始する際、必ずポイントを確認してから始めるとともに、必要に応じてカードを示しながら確認する。</p> <p>○ すぐに振り返りができるように、練習場面をタブレット端末で録画しておき、見ながら振り返るようにする。</p> <p>○ 褒めるときは、何が良いか分かるようにポイントカードの言葉を用いて具体的に褒めるようにする。</p> <p>☆ 舌を脱力して、口蓋垂が見えるように平らに安定することができたか。</p> <p>○ 意欲的に取り組むができるように、おはじきを使うか、カラーボールを使うか本児が選択するように指示する。</p> <p>○ 自信をもって正しく弁別することができるように、最初は正しくできていることが多い無意味3音節レベルの異同弁別から練習を始める。正しく弁別できていることを確認したら、単語レベルでの正誤弁別へと練習を進めていく。</p> <p>☆ 単語レベルで、正誤弁別が正しくできたか。</p>	<p>・ 本時の予定表</p> <p>・ ポイントカード</p> <p>・ タブレット端末</p> <p>・ ペンライト</p> <p>・ おはじき</p> <p>・ カラーボール</p> <p>・ 紙皿</p> <p>・ 無意味3音節カード</p> <p>・ 単語カード</p>

<p>4 「よくきいてまねっこ」をする。        ([ki]単音節レベルの構音練習)</p> <p>(1) ルールを確認する。        (2) 指導者の後に続けて構音する。        (3) 勝ち負けを確認する。</p>	<p>○ 意欲的に取り組むことができるように、3種類のゲームから1つ選択するように指示する。        (すごろく・カードめくり・カラーボールとばし)</p> <p>○ 正しく構音することができるように、指導者が構音する音をよく聞くことを確認してから練習する。</p> <p>○ 音が歪んだときには、正しい舌先の位置が意識することができるように、「べろの先は下の前歯のうしろだよ。」と言葉を掛け、指導者が口元を見せながら手本を示す。</p> <p>○ 正しく構音することができたときは、「先生と同じ音だったね」など、すぐに言葉掛けをし、正しい音を意識付ける。</p> <p>○ 確実に正しく構音できるようになってきたら、本児が最初から一人で構音するようにしていく。その場合、本児が構音した音をよく聞いて、比較・照合も行うように促す。</p> <p>○ 正しく構音できたり、言い誤ったことに気が付いて正しく言い直そうとしたりした際は、肯定的な評価を行う。</p> <p>☆ 単音節レベルで[ki]を正しく構音することができたか。</p>	<p>・すごろく        ・カード        ・カラーボール        ・紙皿        ・鏡        ・タブレット端末</p>
<p>5 本時の振り返りをする。</p> <p>○ 終わりの挨拶をする。</p>	<p>○ 本時の中で、良かったところを伝える。</p>	<p>・本時の予定表</p>